

わすれな草

東日本大震災遺族の

記憶を記録し

伝えることについて

《当事者》と語り合う

講演・座談会

2022年

11月26日 土 13:30-16:00

動画配信

2022年

11月27日～12月11日

《プログラムは裏面をご覧ください》

申込方法

講演・座談会、動画配信いずれもオンラインで開催します。

こちらの申込リンクから参加登録をお願いします。

登録後、参加用リンクをメールでお知らせします。

(右のQRコードからもアクセスできます)

<https://forms.gle/CQpFzE1qLmho3VBW7>



主催：早稲田大学総合人文科学研究センター〈現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究〉部門

共催：早稲田大学「地域社会と危機管理」研究所、シニア社会学会「災害と地域社会」研究会、

早稲田大学総合人文科学研究センター「知の蓄積と活用に向けた方法論的研究」研究部門、安渡町内会



◆お問い合わせ◆

早稲田大学総合人文科学研究センター

〈現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究〉部門

担当：野坂 真

Email: shin-nzk@aoni.waseda.jp

講演・座談会（オンライン） 11月26日（土）13:30～16:00

- はじめに
- 開会挨拶
村田晶子（早稲田大学文学学術院教授、総合人文科学研究センター〈現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究〉部門長）
- 趣旨説明
野坂真（早稲田大学文学学術院講師〔任期付〕、総合人文科学研究センター〈現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究〉部門研究員）
- 基調講演「刻まれる『生きた証』～震災遺族の取材から」
藤原規衣（フリーアナウンサー/元 岩手朝日テレビアナウンサー）＊東日本大震災の直後から、岩手県沿岸部で行った被災者とりわけ震災遺族への取材の経験をもとに、震災の記憶を記録し伝える重要性と課題について講演
- 座談会「震災をいかに伝え、震災から癒されるか？」
司会：野坂真（早稲田大学文学学術院講師〔任期付〕）
登壇者：藤原規衣（フリーアナウンサー/元 岩手朝日テレビアナウンサー）
倉堀康（岩手県大槌町の震災遺族）
野坂紀子（岩手県大槌町の震災遺族）



基調講演講師プロフィール：フリーアナウンサー/元 岩手朝日テレビアナウンサー兼記者（2007年～2017年）/在局中は、ニュースキャスターや子ども番組のおねえさん役など幅広く担当。震災の後、遺族の取材に努め、テレメンタリー2015「3.11を忘れない 生きた証・語り継ぐ痛み」のディレクターを担当。現在は都内の中学校で震災継承の活動にも取り組む。

東日本大震災をめぐっては、被災当事者の心の復興と震災伝承が、いまま社会全体の重要な課題であり続けている。

震災遺族の記憶には、突然将来が大きく破壊された後、再び歩み始めてきた経験など、多くの人にとって変動し続ける現代社会を生きていく上で極めて重要な教訓がふくまれる。しかし、そうした経験を語るには大きな心の負担を伴うことが多い。一方で、自分なりに気持ちや経験を表現したものが他の人に「伝わる」ことで身近な人の犠牲や自分の辛い経験が無駄ではなかったと遺族は思える部分もある。

震災から10年以上が経過し、気持ちを表現できる人々も増えてくる今だからこそ、震災遺族の記憶を記録化し伝える意義と方法、さらに課題についてあらためて考えたい。

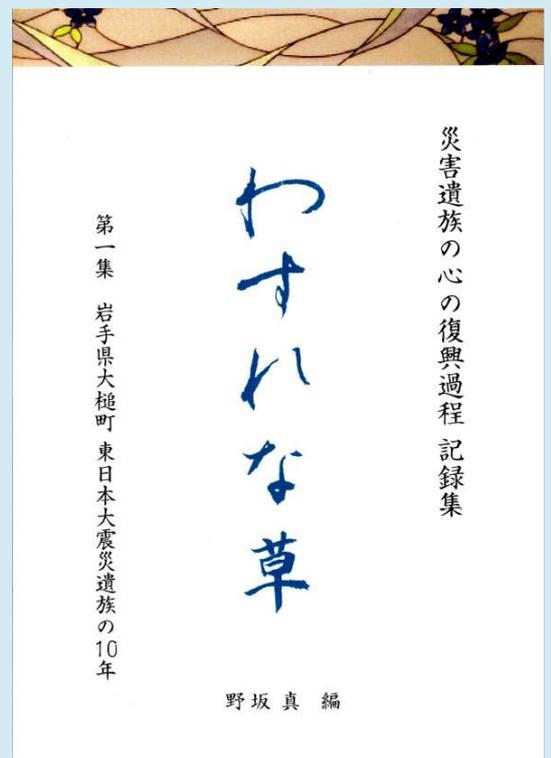
動画配信（オンライン） 11月27日（日）～12月11日（日）

震災から10年間、大槌町の震災遺族に経験したことや感じたことを語っていただきました。実際の聞き語りの音声を写真とともにご視聴ください。

聞き語りのより詳しい文字記録は、「災害遺族の心の復興過程記録集 忘れな草《第1集》：岩手県大槌町 東日本大震災遺族の10年」（2022年2月発行）という本にまとめてあります。大槌町立図書館、岩手県立図書館、宮城県図書館、東京都立図書館にて閲覧できますが、ご所望の場合は表面の問い合わせ先（野坂）までご連絡ください。

《配信予定の内容》

- ① 聞き語り記録その1「作品づくりをつうじた『出会い直し』」（煙山佳成、井手早智子）より
- ② 聞き語り記録その2「元の土地に戻れないけど、生きていけば良いこともあるから」（小國栄一、小國紀子）より
- ③ 聞き語り記録その3「孫たちへ亡き父と一緒に津波の怖さと家族の幸せを伝える」（佐藤加奈絵）より
- ④ 11月26日講演・座談会の録画映像



災害遺族の心の復興過程記録集

第一集 岩手県大槌町 東日本大震災遺族の10年

野坂真 編